

国際環境 NGO  
グリーンピース・ジャパン

# 年次報告書 2022

GREENPEACE



## 「地球のため」は私たちのため 市民とともに未来を見据えた変化を

2022年は、自然環境にとって画期的な前進も多くありましたが、その一方で世界中の何千万人もの人々が、異常気象や戦争の恐怖、エネルギー危機、続くパンデミックに脅かされた年でもありました。その中で、多くの人々がこれまで当たり前としてきた暮らしにおける優先度、働き方や、地域とのつながり方など、生き方への問いが多く生まれることになりました。

世界中が大きな不安に翻弄されながら変化しつつある今、目指されるべきは環境と命が守られる世界であり、核の脅威やプラスチック汚染のない世界であり、紛争や暴力のない世界です。そしてこれらの問題は互いに深く結びついています。

グリーンピース・ジャパンは、グリーンピースの中でも最大組織の一つであるグリーンピース・東アジアと連携を強化し、北京、香港、台湾、ソウルといった他のグリーンピースのオフィスとグローバルに行動を行い、常に変化の先を見据えてきました。私たちが目指す未来はいつでも、市民の暮らしがより良く変わることに繋がっています。

2022年の活動の成果として、ご報告できることは多くあります。

プラスチックキャンペーンでは、カフェチェーンごとの使い捨てカップの消費量を日本で初めて明らかにし、最も多くの使い捨てカップを出しているスターバックスとの継続的な対話が実を結び、スターバックスは2023年に入って全国の店舗の8割で、繰り返し使える店内用グラスを導入することを発表しています。

市民とともに地方から仕組みを変える取り組みでは、グリーンピースが事務局を務める「ゼロエミッ

ションを実現する会」が建築物省エネ法改正に貢献し、2025年からはすべての新築の建物に断熱が義務付けられることとなります。これは日本の省エネの大きな前進です。

このように、気候変動を好転させるための変化は、自然環境のためだけのものではなく、市民のより良い暮らしと密接に繋がっており、ひいては企業、政府にとっても望ましい前進であるといえるのです。

グリーンピースの使命は、20年、30年、さらに先を見据え、子どもたちが幸せに生きられる地球の未来から逆算し、今の変化をつくっていくこと。

日本には多くのグローバル企業があり、政府の選択も国際的な注目を浴びています。その一つに変化を起こすことは、大きな影響力と相乗効果をもって世界を変化させ得ます。私たちは、数多くのサポーターとともに歩んだ50年を超える軌跡の中で得た、実績、スキル、専門性、つながりを最大限に活かし、仕組みを変えうる力を持つ機関に対し積極的にアプローチし、市民のための変化を実現させていきます。

グリーンピースは、独立した活動を守るため、政府や企業からの財政支援を受けていません。だからこそ、国や企業からの干渉を受けず、独立した立場で環境保護活動を行うことができます。これらの活動はすべてみなさまの支えなくしては、実現することのできないものです。改めて力強い支援に感謝申し上げます。そして、今後より一層未来のために「行動するNGO」として、科学的根拠に基づく徹底した現場主義を軸に活動していくことを固く約束します。

美しい地球と大切な命を守るために、これからもどうかグリーンピースと一緒に行動してください。



© Dermot Killoran / Greenpeace

*S. Annesley*

グリーンピース・ジャパン 事務局長  
サム・アネスリー

活動を支えてくださった多くの皆さんに  
心より感謝申し上げます

8,069 人  
寄付サポーター数

3,700 人\*  
イベント参加者数

167 人  
新規ボランティア登録者数

3,164 件  
メディアで紹介された件数

2,152,328 回  
ウェブサイト総閲覧回数



\* 約3,700人。通常のイベントの他、学校での講義、企業研修、記者向け勉強会、ライブ配信などを含みます。

## Climate & Energy

原発にも化石燃料にも頼らない、  
2050年ネットゼロへの道筋



2022年はロシア軍によるウクライナ侵攻によって、化石燃料に依存したエネルギー安全保障や、有事の際の原子力発電所がいかに大きなリスクを抱えているかが浮き彫りとなりました。世界各地での気象災害も続き、東京では6月下旬の最高気温が過去147年間で最高を記録。グリーンピース・ジャパンは、時事ニュースに呼応する発信をタイムリーに行いながら、世界各地と連携して世界のエネルギー起源CO2の23%を排出する運輸部門を代表する自動車メーカーへの働きかけを強め、気候変動対策を加速させています。また、グリーンピース・ジャパンが事務局を務める「ゼロエミッションを実現する会」が建物の断熱を義務化する建築物省エネ法の改正案成立に大きく貢献しました。7月にはグリーンピースの専門家チームが、ロシア軍が一時占領していたチョルノービリ（チェルノブイリ）原発周辺の放射線調査をウクライナ政府協力の下で実施、調査結果を世界に公表しました。



トヨタの株主総会開場前でアピールを行うダニエル・リード（気候変動・エネルギー担当、ドライビングチェンジ・キャンペーンプロジェクトリード）

© Taishi Takahashi / Greenpeace

### 01

## # DrivingChange キャンペーン

交通機関の脱炭素化の必要性がますます高まる中、自動車産業では、炭素削減の鍵を握るバッテリー式電気自動車（BEV）は世界の全車両販売数の約10%を占め、2021年と比べ68%増加しました。日本では販売数の3%にとどまっていますが、日本市場への世界的な関心が高まっており、中国の電気自動車メーカーBYDと韓国最大の自動車メーカーヒョンデ（現代）が、日本でのEV戦略を推し進めています。グリーンピースは、日本国内、そして世界でEV車シフトへの転換、気候変動対策の加速を促してきました。

トヨタの年次株主総会への参加もグリーンピースの2022年の活動の一つです。株主の立場からも脱炭素を求めるため、最小単位でトヨタの株式を保有しているグリーンピースは、愛知県豊田市で開かれた総会に参加。また、集まった多数の報道関係者への取材対応を行いました。



## 自動車環境ガイド 2022

(2022年9月発行)

世界の自動車メーカー大手10社の気候変動対策についてまとめた報告書。

順位	メーカー	数値ポイント	2021年のEV販売割合	ICEの車種別売上	サプライチェーンの脱炭素化	気候変動対策の透明性	減点
1	ゼネラルモーターズ	38.5	8.18%	24.98	14	0.5	-1.0
2	メルセデス・ベンツ	37.0	3.82%	21.03	14	3.0	-1.0
3	フォルクスワーゲン	33.3	5.21%	20.76	12	1.0	-0.5
4	フォード	23.5	1.40%	15.47	8	0.5	-0.5
5	ヒョンデ・起亜	22.3	3.49%	11.85	11	0.5	-1.0
6	ルノー	20.3	6.69%	14.27	6	0.5	-0.5
7	ステランティス	19.3	2.86%	13.81	6	0.5	-1.0
8	日産	13.4	2.20%	6.41	5	2.5	-0.5
9	ホンダ	12.8	0.35%	9.78	3	0.5	-0.5
10	トヨタ	10.0	0.18%	7.48	3	0.5	-1.0

10社の中で最も気候対策が遅れていたトヨタ自動車は、2021年の調査結果に続き、2年連続で最下位に。また日産、ホンダがそれぞれ8位、9位へとランクダウンし、国内自動車メーカーがワースト3位を独占する結果となりました。多くの日本の自動車メーカーから以前より先進的な発表（トヨタのBEV販売目標の改善、ホンダによるソニーとの新たなBEV開発計画など）がありましたが、販売とサプライチェーンの両輪において現在の日本メーカーの脱炭素化の取り組みが不十分であり、海外競合他社に大きく後れを取っていることが明らかとなりました。

また、日本政府に対しては、EV車補助金政策の延長を求めて、経済産業省と面談、報告書と署名を提出し、その必要性を訴えてきました。2022年の10月には岸田文雄首相が、環境対応車（電気自動車など）の購入補助の継続方針を発表しました。

グリーンピースは引き続き、日本最大の製造業である自動車産業全体を持続可能なものとするために、働きかけを続けていきます。

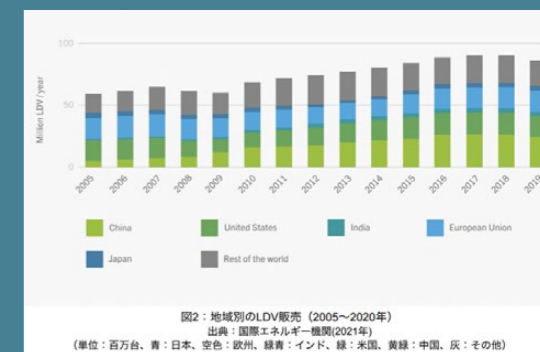


## 報告書

## 内燃機関車もたらすカーボンバブル

(2022年11月発行)

主要自動車メーカー4社（トヨタ、フォルクスワーゲン、ヒョンデ・起亜、ゼネラル・モーターズ）の内燃機関（ICE）車販売についての報告書。



グリーンピース・ドイツ、シドニー工科大学、ドイツ自動車管理センターが共同で、地球温暖化を1.5°C以内に抑えながら、今後どれだけのICE車を販売できるかを検証。この調査の結果、世界の自動車メーカーは気温上昇を1.5°Cまでに抑えるための許容範囲から、推定4億台を超えるICE車を2050年までに販売すると予測されています。特にトヨタの超過分は6,300万台に上るとみられます。



© Paul Langrock / Greenpeace

02

市民とともに、地方自治体を  
カーボンニュートラルに！  
ゼロエミッション キャンペーン

2020年9月にグリーンピース・ジャパンが立ち上げた、気候変動を抑えるために行動するコミュニティ「ゼロエミッションを実現する会」では、今年も様々な成果を残すことができました。省エネ、そして市民の健康にとって非常に重要な住宅の断熱義務化の未来を左右するのが「建築物省エネ法」です。2022年1月、この改正案の国会提出が見送られる可能性が高まり、断熱の大切さを訴えてきた「ゼロエミッションを実現する会」では、署名活動への協力を基軸に、メンバーが地元選出の国会議員との勉強会やメディア向けの勉強会を主催、その他にも専門家や事業者、他NGOとともにさまざまな活動を行いました。その結果、一転して改正案の国会提出が実現し、6月に同改正案が可決。2025年からすべての新築の建物の断熱が義務化されます。これは大きな前進ですが、日本の断熱基準は未だ欧州などに比べて著しく低いため、グリーンピースは引き続き市民とともに断熱性能の向上に取り組んでいます。

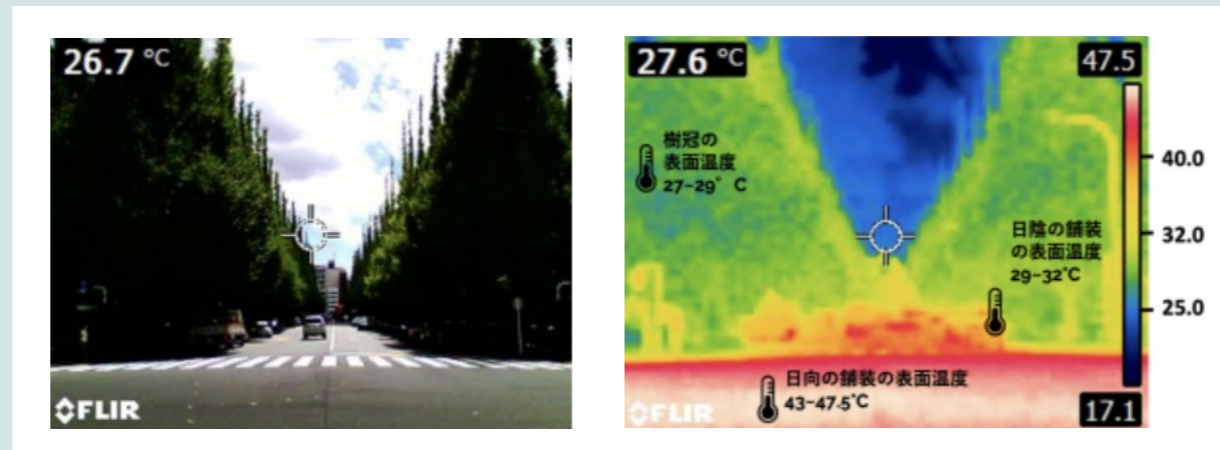
省エネとともに温室効果ガス削減に重要なのが再生可能エネルギーの利用拡大であり、自治体レベルでは屋根置きソーラーパネルの設置が特に効果的な対策です。2022年5月、東京都がハウスメーカーへの太陽光パネル設置義務化を含む条例改正案へのパブリックコメントの募集を始めた際、東京都自民党に関連業者などから反対の声が寄せられ、6月の東京都議会では「慎重な対応」を求める質問が相次ぎました。「ゼロエミッションを実現する会」では、「パブコメを書く会」などのワークショップを開催。太陽光パネル設置義務が気候危機回避に有効な施策であることの周知を努め、パブコメ提出を呼びかけました。その結果、賛成意見が反対意見を上回り、義務化を提案する東京都の背中を押すことができました。条例は2022年の12月に可決、成立しています。



「ゼロエミッションを実現する会・横浜」メンバーの皆さん

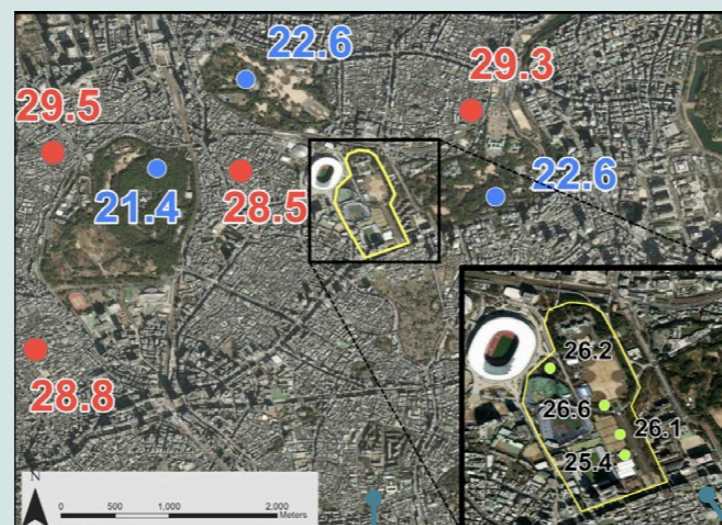
2030年温室効果ガス削減目標を60%以上(2013年度比)へ引き上げ、日本の温暖化対策をリードする都市となることを横浜市に求めている

「ゼロエミッションを実現する会」では、各自治体に参加希望者がひとりでもいれば、他の自治体の仲間がサポートすることでアクションを可能にしています。また、同じ自治体に仲間を見つけてチームをつくり、アクションに繋げるスキーム構築のため模索を続けています。パブコメや、議会への陳情、請願など、「住民参加」の枠組みは先人が獲得してくれた私たちの大事な権利です。十分に知られていなかったり、形骸化したりしているそれらの方法に息を吹き込み、効果的に活用することで、自治体行政に住民の意をしっかりと反映させ、気候危機の回避に繋げるために行動しています。



1000本の樹木を切らないで

都市の樹木の役割を  
気候変動の観点から考える



東京都心にある3つの大きな公園とその周辺の住宅地や商業地における地表面温度（衛星画像）



地表面温度計測の様子

明治神宮外苑の拡大図と4つの調査地点の地表面温度（°C）

日本全国で「再開発」の名のもとに街路樹の伐採が行われています。東京都の神宮外苑も銀杏並木などの都市遺産が巨大開発事業によって脅かされています。グリーンピースは、イギリスのエクセター大学内に独自に持っているリサーチユニットと協力し、神宮外苑の小さな森や街路樹のような樹冠の広い十分に育った木が、アスファルトの温度上昇を防ぐ働きがあることを改めて明らかにしました。東京都立大学の三上岳彦名誉教授と、本件でキャンペーンを展開する経営コンサルタントのロッシェル・カップさんとともに記者会見を行い、調査結果をひろく発表しました。

03

気候変動枠組条約締約国会議 COP27に参加

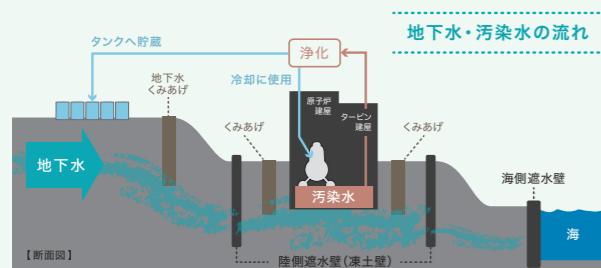
2022年は、グリーンピース・ジャパンが世界のグリーンピースとともに国際的に気候正義を求めた年でもあります。エジプトで開催された国連の気候変動対策の会議（COP27）には、世界のグリーンピースから参加したメンバーに加え、グリーンピース・ジャパンからもスタッフが現地参加、交渉がより良い方向に向かうよう、期間中毎日、世界中の交渉官との意見交換や交渉に臨みました。洪水により壊滅的な被害を受けるパキスタンをはじめ、今まさに気候変動の被害を受けている国の人々の声を届け、日本政府に対しては、特に後ろ向きであった化石燃料の段階的廃止や、損失と被害に関する国際的な基金設立に賛同するよう強く求めてきました。

そのほか、日々会場内で開催される気候アクションに参加し、世界の市民と連帯して各国や地域の交渉官に対してより野心的な成果を求め、また日本からもCOPが私たちの未来に関わる身近なものと感じてもらえるよう会場の議論の様子をソーシャルメディアを通じてリアルタイムに発信、帰国後は対話型の報告会も開催しました。



04

ずさんな廃炉計画にストップを「原発汚染水、海に流すな！」



(国の資料をもとに作成)

2021年4月、菅義偉首相（当時）が、東京電力福島第一原発の敷地内に貯留されている汚染水の海洋放出を決定、発表しました。グリーンピースは2011年の原発事故直後から継続して放射線調査を実施し、あらゆる側面から原発のリスクを科学的に証明、世界に発信し続けてきました。汚染水問題にとり組み始めたのは2012年のことです。

政府や東電は汚染水を指して「トリチウム水」などと言いますが、トリチウムの他に基準値以上のセシウムやストロンチウム、プルトニウム、炭素14などが残留している汚染水は「トリチウム水」とはとうてい呼べません。専門家に分析を依頼した結果、廃炉計画も汚染水の海洋放出も、まったく現実的な解決策ではないことが明らかとなりました。これらの調査結果をもとに、市民団体や地元の方々や協力し、経済産業省や東電、福島県に対し、海洋放出計画の中止を求め、代替案を提示しています。また、各メディアへ向けた実情の報告も行っています。

グリーンピースは今後も、被害に遭われた方々への聞き取り、国際社会への働きかけなど、汚染水の海洋放出を止めるべく活動を続けていきます。

Good Life

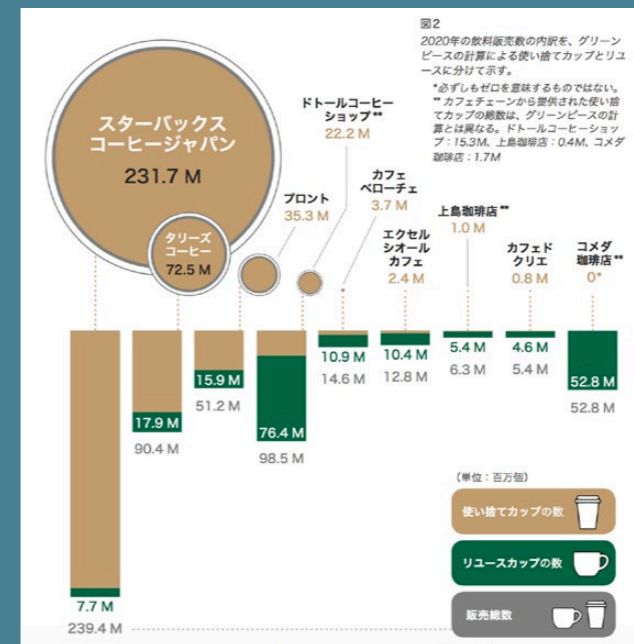
プラスチック汚染の解決に向けて動き出す世界



© Juan Pablo Mayol / Greenpeace

2022年には、プラスチックに関する大きなニュースが2つありました。1つは国連環境総会が、2024年までにプラスチック汚染に包括的に対処する国際条約を制定すると決定したこと。もう1つは、日本でプラスチック資源循環促進法（以下、プラ新法）が施行されたことです。しかしプラ新法は限定的で、深刻化するプラスチック汚染を解決に導くに十分な内容ではありません。国際的なプラスチック条約制定に向けた交渉が始まり、今後、使い捨てプラスチックを大幅に減らすための取り組みが世界で加速していくことが見込まれます。日本においても政策の見直しを含め、使い捨てを減らすリユース（再利用）を基調とした循環型社会形成への動きを早急に作っていく必要があります。グリーンピースは引き続き政府や企業に向けて、プラスチックの生産と使用の大幅削減を訴えていきます。

報告書



日本のカフェ業界における使い捨てカップの現状

(2022年7月発行)

これまで明らかにされていなかったカフェ業界における使い捨てカップの消費量を調査し、日本で初めてカフェチェーンごとの使い捨てカップ消費量を算出した調査報告書「日本のカフェ業界における使い捨てカップの現状」を発表。調査の結果、大手の9つのチェーンだけでも年間3億6,950万個の使い捨てカップを消費して、なかでもスターバックス・コーヒー・ジャパン社（以下、スターバックス）は残りの8チェーンの合計よりも多い2億3,170万個の使い捨てカップを排出していることがわかりました。



特に使い捨てカップ提供量の多いスターバックスの店舗前で、大手カフェチェーン各社にリユース転換を求めるメッセージを掲げた

© Sawako Obara / Greenpeace

01

「日本のカフェ業界における使い捨てカップの現状」調査報告書を発表

同調査報告書の結果を踏まえて、特に使い捨てカップの消費量が多かったスターバックス、タリーズコーヒー、プロントの3社に対し、グリーンピースは使い捨てカップからの脱却を求める署名を立ち上げました。報告書発表とその後の活動が、業界大手のリユースカップ活用に向かう動きに影響を与えています。脱使い捨ての取り組みが当たり前になる社会を目指して、引き続き企業に働きかけていきます。

グッバイ・ウェイスト



© Chihiro Hashimoto / Greenpeace

02

プラスチック汚染を終わらせる国際的な条約制定に向けて

2022年3月に国連環境総会で、2024年までに世界のプラスチック汚染に包括的に対処する、法的拘束力のある国際条約を制定することが決定しました。これはプラスチックが地球環境や人類に有害な汚染を生み出していることを国際社会が認め、それを規制するために動き出した歴史的快挙です。地球が直面しているプラスチック汚染を解決するためには、プラスチックごみによる海洋汚染に対処するだけでなく、原料採掘から製造、流通、消費、廃棄までのあらゆる段階で国際的に規制することが不可欠です。グリーンピースは国連環境総会や、11月から始まった政府間交渉委員会に代表団を派遣しています。野心的な条約を求めて各国や地域の政府やステークホルダーへの働きかけを続けます。



© Manuela Lourenço / Greenpeace

03

市民主体で脱使い捨て社会を楽しく作る！西荻グッバイ・ウェイスト大作戦

2022年4月より、市民グループ「西荻大作戦」と共同で、東京都杉並区西荻窪エリアでの使い捨てプラスチック削減に向けた取り組み「西荻グッバイ・ウェイスト大作戦」を立ち上げました。映画『The Story of Plastic』の上映会や、マイ容器を持ち込んで、使い捨て容器を使わずに飲食店で買い物をするイベントなどを開催し、延べ300人以上が参加しました。2021年に公開したごみを出さない買い物マップ「グッバイ・ウェイスト」には、西荻窪駅周辺のマイ容器対応店が現在40店舗以上登録されています。10月には「西荻プラごみおぼけハロウィンパレード」を開催。「プラスチックごみがおぼけになってイタズラしにきた」というコンセプトのもと、家庭で出たプラスチックごみを使った衣装を身につけた地域住民が西荻窪の街をパレード。マイ容器対応店を紹介するなど、道ゆく人々とのコミュニケーションが楽しまれていました。また、パレードの道中には近隣の3つのスーパーに脱使い捨てを求めるメッセージを届けています。

## Global Campaign

戦争、気候災害、  
高まる世界的不安を拭うために  
世界中の仲間たちと



© David Visnjic / Greenpeace

発生から3年が経ってなお増えている新型コロナウイルスによる死者数。ロシア軍によるウクライナ侵攻は市民の命と生活を脅かし、世界的なエネルギー不安を高めました。気候災害は頻発化し規模を大きくしています。命の危険、エネルギー不安、生活必需品の値上げなど、世界全体から安心感が奪われているような日々が続き、国際的な連携がいつにも増して求められています。グリーンピースはこの事態を大きく好転させるため、世界中と力をあわせ、重要な調査を行い、政府や企業などの仕組みを変える力を持つ機関へ働きかけています。世界55の国と地域の拠点から、想いをともにしてくださる人々と力をあわせ、世界に蔓延する不安に立ち向かうための活動を続けます。



© Jeremy Sutton-Hibbert / Greenpeace

### 01

#### ウクライナでの放射線レベル モニタリングと現地調査

2022年2月に始まったロシア軍のウクライナ侵攻では、2月24日にロシア軍がチョルノービリ原発を占拠、3月4日には南東部のザポリージャ原発が攻撃され、5月6日にはハルキウの核研究施設が攻撃を受けました。このニュースに心が凍るような思いをされた方が多くいらしたでしょう。放射線防護の専門チームを持つグリーンピースは、ロシア軍の侵攻直後からウクライナにおける放射線のレベルのモニタリングを24時間体制で行ってまいりました。日本からも放射線防護アドバイザーが参加し、調査のバックアップに貢献。7月にはウクライナ政府の協力のもと、チェルノービリ原発周辺の放射線量調査を行い、結果を公表しました。

### 02

#### コカ・コーラ 2030年までに商品の25%を リユースへ

コカ・コーラが2030年までに自社商品の25%以上をリユース可能なパッケージにすることを約束しました。グリーンピースは、コカ・コーラをはじめとするプラスチックごみを多く出す企業4社に、使い捨てプラの大量生産をやめるように求める国際キャンペーンを続けてきました。この発表を歓迎するとともに、続く他企業のリユースへの転換とさらなる野心的な目標設定を期待し、働きかけを続けます。



© Maria Feck / Greenpeace

## Volunteers & Interns

学びを活かして  
仲間とともに「行動」へ



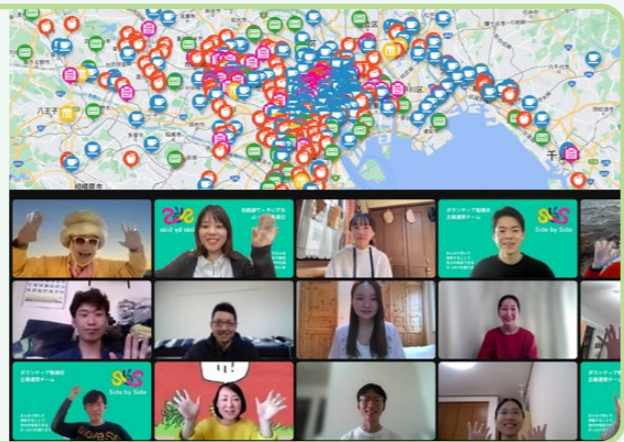
© Chiaki Oshima / Greenpeace

### 01

#### ボランティアの皆さんとともに

東京レインボープライド(4月)への出展や、マイ容器での買い物を体験するイベントの開催など、新型コロナウイルスの拡大が始まってからの過去2年間に比べて少しずつ対面の機会を再開できた1年でした。また、東京では約3年ぶりにオフラインで開催された「世界気候アクション0923 #気候危機はいのちの問題」に約400名が参加し、グリーンピース・ジャパンもボランティアメンバーと一緒に渋谷の街を歩きました。

グッバイ・ウェイストチームでは、**ごみを出さないお買い物マップ「グッバイ・ウェイスト」**の利用者や登録店舗を増やすため、昨年に続きSNSでゼロウェイストのお店を紹介。マップには新たに300店舗以上が登録されました。2023年は、これまでの**ボランティアチーム**の経験やアイデアを活かしながら、今まで以上にキャンペーンを盛り上げ、ビジュアライズするオフラインアクションに力を入れていきたいと考えています。



2020年よりボランティアチーム「Side by Side」が主催している毎月のボランティア勉強会には、合計80名以上が参加しました。2022年は、これまでの「インプット・アウトプット」だけでなく、「行動」するための機会を設け、実際に各自宅の契約電力会社を再生エネ事業者に切り替える「パワーシフト」を実践する回や、プラスチックキャンペーンのプロジェクトの一つ「西荻グッバイ・ウェイスト大作戦」と連動して、吉祥寺や西荻窪でマイ容器で買い物をするイベントを開催しました。



© Chiaki Oshima / Greenpeace

代々木公園で毎年行われている東京レインボープライドは、LGBTQをはじめとするSOGIにおけるマイノリティの存在を社会に広め、「性」と「生」の多様性を祝福するイベントです。当日は、「環境保護とLGBTQIAの権利はつながっている」ということを軸にグリーンピースの過去のアクションなどの写真を展示しました。ボランティアメンバーも数名参加し、スタッフとともに来訪者とのコミュニケーションを楽しみました。

### 学生ボランティアがテレビ番組に出演!



© Greenpeace

グリーンピース・ジャパンの大学生ボランティアチーム『プラフリー大学』では、キャンパス内でプラスチック削減の取り組みを積極的に行っている大学にインタビューし、学生がどのように自分の大学でプラスチック削減の取り組みを推進しているかについて情報収集を行いました。今後その情報を発信していく予定です。また、2022年はプラフリー大学のメンバーがNHKの番組「未来王2030」に出演。環境問題などに取り組む若者約100人がクイズに挑戦する番組で、見事予選を勝ち抜き、本戦に出場しました。

### 02

#### インターンの皆さんとともに

2022年は、グリーンピース・ジャパンのチームメンバーとして5名の学生インターンが活躍しました。「西荻グッバイ・ウェイスト大作戦」におけるマイ容器対応店のリサーチや、グリーンピース・ジャパンが事務局を務める「ゼロエミッションを実現する会」のイベントサポートの他、SNS投稿、政策・渉外担当職員とともに国会議員訪問や資料作成、大学での講義やイベント出展など、多岐にわたる活動に参加しました。2023年も早速新しい仲間が加わって活躍中です。



© Greenpeace

武蔵大学のイベント「SDGs 17 Partnership Fair 2022」に参加したスタッフとインターン



プロッツミシェル 綾那さん

インターンシップの最後に任された政策調査のプロジェクトは、政治や政策に関心があった私にとって、とても有意義な経験でした。実際のこの経験を通じて、気候変動についてより国際的な枠組みや政策の観点から、専門的に学びたいと考えるようになりました。気候変動に関する専門的な知識の習得を目指してインターンに参加した私にとって、グリーンピース・ジャパン、そして「ゼロエミッションを実現する会」はそれ以上に大切なことを教えてくれました。学生インターンという枠組みに縛られず仕事を任せていただいたこの経験を、この先、様々な場面で活かしたいと思います。



石谷 結依さん

インターンに応募した理由は、グリーンピースは世界規模で幅広い分野において積極的に活動していることから、将来、環境保護につながる仕事をしたいという夢を具体化し、より現実的なものにできると考えたからです。また、担当業務が気候変動、エネルギーに関する事だったからです。私が環境問題で特に興味関心を持っている分野でのインターン業務を通して、自分を成長させることができました。また、ここで学んだことをアウトプットし、仲間を集め、そして将来は自然と人間の共存のために様々な人と協働して活動していきます。



## Ambassadors

### 人と人とのつながりを力に



© Chiaki Oshima / Greenpeace

長引くコロナ禍のなか、2022年には久しぶりの会場イベントや、各界で活躍する著名人への対面インタビューを実施することができ、人と人が直接つながれる機会の大切さに改めて気付かされる1年となりました。環境問題を解決したいと願う方々が持つ声の力と、その影響力があることで、新たなつながりを生み出すことができました。

## 01

### 100年後の理想の未来に向けて

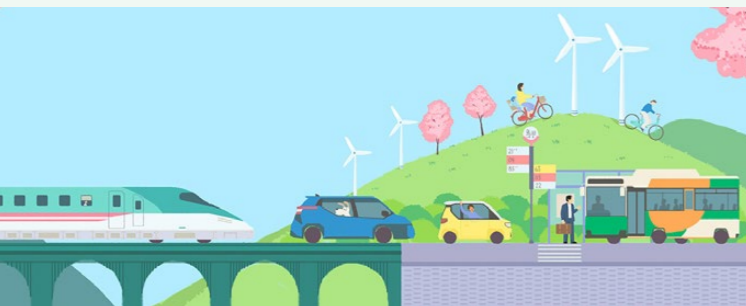
自然環境を脅かす多くの課題を解決し、素晴らしい地球の恵みを100年後の未来まで届けるためには、より多くの人々と連携し、より多くの仲間と協力しあって、社会のシステムそのものの改革を目指さなければなりません。そんな思いから始めた「NEXT100プロジェクト」では、グリーンピース・ジャパンが考える100年後とそれぞれが思い描く100年後の社会のあり方を重ね合わせ、めざす未来像を一緒に考えました。2022年は、水原希子さん（ファッションモデル・俳優）、二階堂ふみさん（俳優）、山田英知郎さん（シェフ）、高橋悠介さん（CFCL代表兼クリエイティブディレクター）といった各界の第一線で活躍する4名の方々からお話を聞きました。



## 02

### ゼロエミッションで持続可能な交通を日本に

各業界のCO2排出を大幅に削減することが求められる中、世界のエネルギー起源CO2の23%を排出する運輸部門。2030年までにCO2を出さないゼロエミッション車（ZEV）100%を達成するために、飯田哲也さん（ISEP環境エネルギー研究所所長）、堀潤さん（ジャーナリスト）、太田絢子さん（気象予報士）、佐藤琢磨さん（レーシングドライバー）に、これからの都市交通のあり方、自然災害現場から見てきたもの、異常気象、そしてこれからの車のあり方についてお話を聞きました。



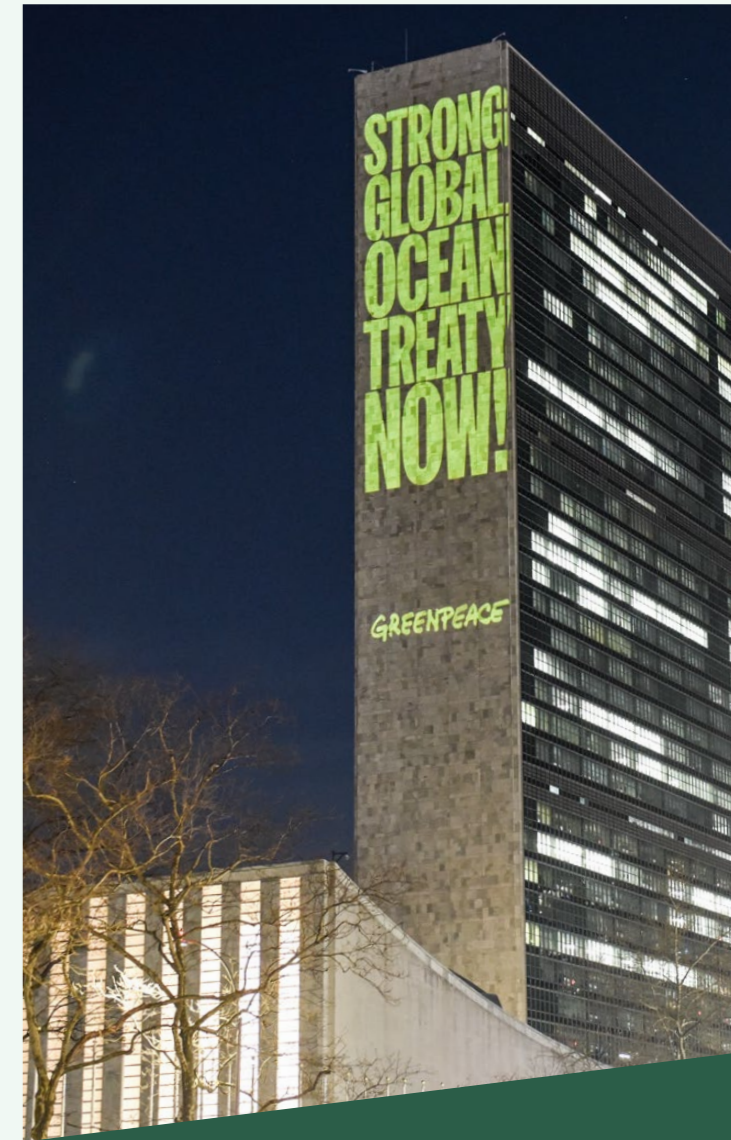
## 03

### 海洋保護区 30%を求めて

国連で行われる世界の海の3分の1を海洋保護区にするための「国連海洋条約」を採択する会議の前に、外務省と環境省に署名提出を行いました。グリーンピース・ジャパンアンバサダーの武本匡弘さんとオーシャンアンバサダーの小野りりあんさんとともに、世界各地、そして日本各地からグリーンピースのもとに寄せられた約400万人の方々の思いを届けてきました。そして、2023年3月4日、各国政府がついに海洋保護条約に合意しました。



© Greenpeace



米国・ニューヨークの国連本部ビルに投影された海洋条約採択を求めるメッセージ

© Stephanie Keith / Greenpeace



武本 匡弘さん

今日、（日本からの）1万6381人の想いがつまった署名を提出することができました。まずは一歩踏み出したように思います。小さな一歩かもしれませんが、これが海や地球を守るための大きな一歩になることを願っています。



小野りりあんさん

30%を守ることが実際に国際交渉の場で議論されていると聞いて、実現すれば将来教科書に載るような転換点になるのだとワクワクしています。今の時代に生きている私たちは、歴史を変える一部になれる機会をもっています。一人ひとりの力って大きいと思います。

04

アーティストとともに  
気候変動のために行動する仲間を増やす  
「Nature Sound Project」

日本に迫る気候変動の危機を広めるために、シンガーソングライター SIRUP さん、音楽プロデューサーでありギタリストの Shin Sakiura さんと一緒に共同制作した楽曲『FOREVER』をリリースしました。2人のアーティストと一緒に自然豊かな日本の里山に実際に足を運んでフィールドレコーディングしたサウンドが楽曲に使用されています。楽曲は音楽ストリーミングサービス Spotify の R&B/Soul ジャンルで TOP3 にランクインするなど、大きな反響を呼びました。アーティスト個人からの寄付にもつながる新しいプロジェクトです。

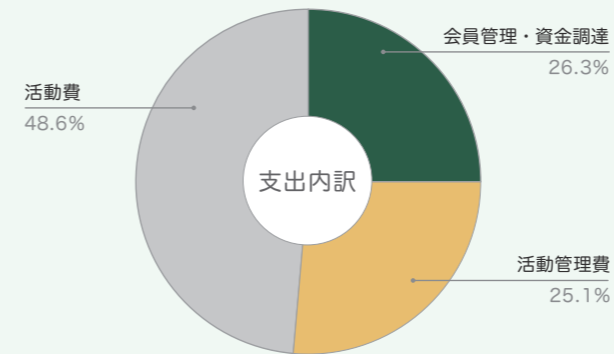
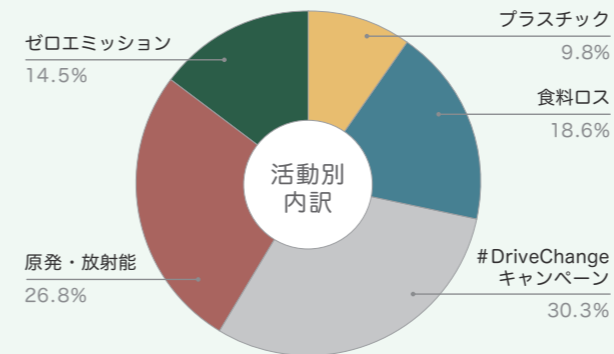


05

アンバサダーとともに  
平和と環境を考える



グリーンピースが誕生した9月、グリーンピース・ジャパン アンバサダーの武本匡弘さんと四角大輔さんをお招きし、「平和と環境」について考えるイベントを開催しました。ロシア軍によるウクライナ侵攻をはじめ、今なお世界中で起きている戦争や紛争、そして環境破壊。2022年は、平和活動を世界各地で行っている NGO ピースボートとコラボレーションし、世界的に人の暮らしと地球の未来がおびやかされる時代において、異なる専門領域を持つ人々がつながることで見えてくる解決策について、100名を超える来場者が集まった会場とオンライン参加の方々と一緒に考えました。グリーンピースのボランティアも久々に集まって、イベント運営のために顔を合わせて協力しあうことができ、人が集うことで生まれるエネルギーを数年ぶりに実感する機会となりました。



グリーンピース・ジャパンの2022年度(1月～12月)における財務報告書は、日本の「一般に公正妥当と認められる監査の基準」(J-GAAS)に準拠して作成され、SCS国際有限責任監査法人により会計監査を受けたものです。2022年度は昨年に引き続き、本部であるグリーンピース・インターナショナルに加え、グリーンピース・東アジア、および個人基金等からも人的・資金的な支援を得て、独立した国際環境NGOとして地球規模の環境問題に関する啓蒙活動を行い、持続可能でグリーンで平和な未来のための提案を行いました。

2022年はゼロエミッション、Driving Change(自動車の脱炭素)、プラスチック問題、食料ロス、原発・放射能問題などに精力的に取り組みました。また、他のグリーンピース支部との連携を強化するため、内部の組織変更を実施しました。これにより、世界各地で活動する国際環境団体としての本来の強みをより生かし、国境を超えて影響を及ぼす環境問題に対し、これまで以上に素早く、効果的な活動を進められるようになりました。

**総収入**：2022年度、寄付およびグリーンピース・インターナショナル(本部)、グリーンピース・東アジアからの支援が増え、グリーンピース・ジャパンの総収入は4億9772万円となりました(前年度の3億3231万円から1億6541万円増)。寄付金の総額は前年度から2405万円(13%)増えました。(本部と東アジアからの支援は前年度比1億4135万円(95%)増)

**総支出**：ファンドレイジングプログラムの効率性が良くなったことにより、前年度より1346万円(3%)減少しました。2022年の総支出は4億851万円でした。

グリーンピースは企業や政府から一切の資金援助を受けていない国際環境NGOです。この独立した立場を保つには個人からのご寄付が不可欠です。2022年度も、皆様の支えのおかげで、気候変動を食い止め、地球の恵みを100年先の子どもたちに届けるための活動を続けることができました。“行動するNGO”として、世界中の方々と協働しながら調査活動を行い、科学的根拠に基づいた提案をもって企業や政府に働きかけ、メディアやサポーターさんをはじめとした多くの方への情報提供を行うことができました。グリーンピースの活動を支えてくださった多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

## グリーンピース・ジャパン 概要

名称	一般社団法人 グリーンピース・ジャパン
所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F
設立年月	1989年4月
代表理事	青木 陽子、寺中 誠
事業対象分野	地球環境保護（気候変動、プラスチック問題、有害物質問題、森林問題等）
活動対象範囲	全世界
組織の目的	地球規模の環境破壊を止めること
具体的な活動手法	① 環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ② マスメディア、市民メディア、会員への情報提供 ③ 環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ④ 環境破壊の現場での抗議活動 ⑤ 政府・企業などへの提案・要請 ⑥ 環境問題を解決に導くための代替案の提示 ⑦ 国際条約の交渉過程を監視、提言
方針	非暴力行動・政治的独立・財政的独立
会員	8,069人（国内）、約300万人（世界全体） ※2022年12月時点
事務局	国内有給職員 31名（うち、時間給制職員6名） ※2022年12月時点
本部所在地	オランダ・アムステルダム（有給職員約3,331名） ※2022年12月時点

## 世界に広がるグリーンピース

日本を含む世界55以上の国と地域を拠点に活動を展開しています。



## ご寄付でご支援ください

グリーンピースの活動はすべて、個人のご寄付のみに支えられています。あらゆる命と未来をまもるため、ぜひサポーターのひとりに加わっていただけませんか。あなたのご寄付が、世界中で起こっている環境破壊を解決に導きます。

ご寄付は [Webサイト](#) からお申し込みいただけます

スマホからも



03-5338-9810  
supporter.jp@greenpeace.org

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

# GREENPEACE

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817  
www.greenpeace.org/japan



@GreenpeaceJP



GreenpeaceJapan



greenpeacejp